

平成28年度 第2回大樹町総合教育会議 議事録

1 日時 平成28年11月30日(水) 午後4時00分から午後5時32分

2 場所 大樹町生涯学習センター 視聴覚室

3 出席者

(構成員) 大樹町長 酒森 正人

教育委員会

教育長 浅井 真介

教育長職務代理者 石山 新一

委員 丹後 恵

委員 鈴木 珠世

委員 山下 博

(説明員) 大樹小学校校長 高井 正樹

大樹中学校校長 高橋 敏宏

大樹高等学校校長 金田 英司

(オブザーバー)

十勝総合振興局長 梶田 敏博

十勝教育局長 竹林 亨

十勝教育局義務教育指導監 沼田 拓己

(事務局)

布目副町長、松木総務課長、角倉学校教育課長、井上社会教育課長、和田学校教育課主幹、中村学校給食センター主幹、藤原総務課主幹、大門総務課総務係主査

(傍聴者) なし

4 欠席者 なし

5 会議内容

午後4時00分 開会

事務局

それでは皆様、本日は御出席いただきありがとうございます。会議に先立ちまして、本日初めてお会いする方もいらっしゃると思いますので、自己紹介をお願いいたします。

(自己紹介)

事務局

それでは、ただいまから平成28年度第2回大樹町総合教育会議を開催いたします。開催に先立ちまして、大樹町長酒森正人より御挨拶を申し上げます。

酒森町長

改めまして、今年度第2回目になります総合教育会議の開催に当たって、一言御挨拶を申し上げたいと思います。本日こうして第2回目の総合教育会議、梶田振興局長様、そして竹林十勝教育局長様、そして沼田指導監様にご出席をいただき、また、町内の小中高の校長先生方にも説明員という形で同席をしていただいたことを本当にありがたく、嬉しく思っております。心からお礼を申し上げたいと思います。

皆さん御承知のとおり、大樹町が小中高一貫ふるさとキャリア教育のモデル校として北海道の道教委の方から御指定をいただいて、いま現在授業に取り組んでいる真っ最中であります。その中で、10月に全道からモデル校、モデル町村が集まるフォーラムがございました。その中で、梶田振興局長、そして竹林教育局長と一緒に十勝の発表の場に同席をしていただいて、全道の取組みについて一緒の場で学ぶことができました。

せっかくの機会ということもありまして、私どもの方から町で行う総合教育会議の場で、もし、御都合がつけば同席して教育委員とともに、大樹の教育をどうしていくかということと一緒にぜひ検討する場に御意見をいただけないかと申し上げたところ、快くお引き受けいただいたということで、学校長の皆様にもお忙しいなか、本日こうして同席していただいたということ、心から嬉しく思っているところです。大樹町のキャリア教育、小中高の連携があってこそ、大樹学というひとつの学びの大きな力があってこそ実現できることがあるというふうに思っておりますし、それが一步一步具現化していくということを非常に嬉しく思っているところでもあります。

実は私も昨日、大樹中学校の方で大樹のお話をしてくれませんかということで、1時間、1年生46人に話をしてみました。1年生がどれくらい大樹自体を知っているかということで、大樹はこういうところなんだよというところ、また、なぜ大樹が宇宙のことに取り組んでいるかということも改めて1年生に話をさせていただきました。

そして、今後大樹町がどうなっていくかというところ、2040年の人口推計が出ている、その中で、大樹町は人口が半減してしまうというようなこともあって、2040年というのは皆さんが30代後半であり、どこに住んでいようと地域の担い手として地域を引っ張っていく、そういう役割を担う。そのとき、日本全体、大樹町も含めて、人口動態、また、経済、産業の状態がどうなっているのかというところをお話しして、それを解決するためにどうしていこうということを、1年生と一緒に相談をしながら検討した

ということで1時間お話をさせていただきました。そういう意味では、昨年に続いてそういう場を中学校の方で設けていただき、非常に嬉しく思っているところでもあります。

高校生とは、高校生議会を2年続けて行いましたが、高校生議会で町のいろいろな方向・あり方について、ガチで、議論をさせていただいておりますし、非常に多くの御意見をいただいているところでもあります。そういう意味で、大樹町の小中高の連携がさらに深まっていく、それが大樹の教育にとって大きな財産になっていくのではないかなというふうに思っております。

こうして、みなさまとともに本日総合教育会議を開けることを本当に嬉しく思っております。ぜひ、忌憚のないご意見を賜れればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局

それでは、これより後は町長の進行により議事に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

酒森町長

それでは、お手元に第2回目となります本日の総合教育会議の議案をお配りをさせていただきました。本日、協議事項として1点目に小中高一貫ふるさとキャリア教育について、そして2点目については新年度教育予算について、3点目はその他ということで、大樹町の教育に関係することを皆さんと意見交換できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1点目の小中高一貫ふるさとキャリア教育について、進めていきたいと思っております。では、教育長お願いします。

浅井教育長

それでは、この事業の学校での取組み、状況を説明していただきますが、まず事業の概要について私の方から御説明します。

すでに資料をお配りしておりますけれども、この資料が事業の全体像です。北海道教育委員会が本道のキャリア教育の充実ということを目的として、平成27年10月、道内の小中高校、道立学校を含め、50校を研究指定校に指定しています。十勝管内では大樹町含め3校が指定を受けて取り組んでいます。

この事業は、地域の未来を担う人材の育成を目的に、自治体、あるいは産業界からの支援を受けながら研究指定校においてキャリア教育を進めるということで、特に小中高の学校間の体系的なキャリア教育に取り組むということを目的としています。

具体的内容としては、この青い資料の一番下を書いてありますが、地域ダイスキ！プロジェクトということがひとつの取組み。もうひとつは、こどもダイスキ！プロジェクトということが、もうひとつの押さえになっておりますけれども、これについては主に高校が中心になって取組んでいる。今日は地域ダイスキ！プロジェクト、これは小中高3校でそれぞれ...(録音状況が悪く聴き取り不可)...内容ですので、この後各学校での取組状況について見ていただいた中で、御意見を伺えればと思っておりますのでよろしくお話ししたいと思います。

金田高校校長

それでは、高校の方から事業についてお話しさせていただきます。まず、ふるさとキャリア教育の推進事業の大きな研究テーマとして、いまの教育長のお話にもありましたけれども、地域の未来を担う人材の育成を図るということで、小中高、これが連携した教育を推進していこうということです。

その中でのサブテーマといたしまして、具体的には本校が中心になりますけれども、大樹学という取組みについて主にやっていこうということでございます。この研究の目的としまして4つ挙げてあります。 から まで、この事業の大きな柱になります地域ダイスキ！プロジェクトの目的になります。 については、こどもダイスキ！プロジェクトの目的になります。

特に についてはですね、高校の家庭科の時間で、外部からの講師を招いたりしながら、家庭のあり方、子どもの育て方等について授業をしているところです。この地域ダイスキ！プロジェクト から についてはですけども、 については小中高12年間通したキャリア教育の体系的なものをつくっていこうということです。 については、そのキャリア教育をするに当たって、地域、大樹町の企業等、それから関係諸団体との連携を強化するのが目的です。そして の大樹の特性、あるいは教育資源を生かした教育活動である大樹学、ということになります。

それでは、その大樹学についてどのように行っていくかということなんですけれども、大樹町には小中高連携教育推進委員会というのがあります。去年の6月に発足いたしまして、そして、小中高、教育委員会の四者が一体となってこの推進委員会を行っているということです。その中で、大樹学については、第1部から第3部まで構成がありますが、第1部、これは高校が主幹になりますけれども、第1部の中で大樹学についてやっていくところです。

その大樹学ですけれども、目標は書いてあるとおりなんですが、これをつくるに当たって、ふるさとキャリア教育の推進事業の目的、それから趣旨、これに合致しているものと考えながら行っています。大樹学に関連した学習を充実することが、今回の指定事業の達成する狙いと合致していると考えながら、大樹学を進めているというところで。具体的には例えば、小中高の子どもたちを交えた星空観察会をしたり、これはJAXAの協力を得ながらやっています。

それから、高校独自ですけれども、先日行った、2年目になりますが、LIXILの住生活財団の協力を得まして、京都大学、神戸大学の大学院生の研究室があってですね、地域の環境と建物について研究しているところなんですけれども、この大学院生が20数名大樹に来ていただいて丸々2日、2年生全員がグループを組んで大樹の住環境についての研究をして、その後生徒がプレゼンをするというようなこともやっております。

お配りした統計の3枚目になりますけれども、赤く区切ったものがあると思うんですが、これがいわゆる大樹学12年間の集大成になります。小学校では町内を知ること、見ること、中学校ではそれにまつわる職業を調べたり、自分の将来を考えること、高校ではそれを実現するためにいろいろな進路実現のための勉強をしていくということで、まちを知りながら育成をしていこうということです。その集大成が高校生議会ということになります。

高校生議会は昨年から大樹町、大樹町議会の協力を得て実施できているところです。今年については10月7日に行いました。3年生が全員参加することになっており、3年生は52名いるんですけれども、それを12のグループに分けて、それぞれのテーマに沿って議会に臨むということになります。

この議会については、一般質問の通告書、これをまずつくります。そして、町からは答弁書をいただきます。それを見てまた再質問を考えます。この一連を約2か月かけてやっていきます。授業については社会科の公民科の中の政治経済の単位としてやっております。今年は6月15日に3年生全員が議会の傍聴して、議会がどういうふうに進められていくかというイメージを沸かせました。その後12グループに分けて学習をしていく。

今年一步前進したのは、その後の学習の時間に、町議会の議員の方が学校に来ていただいて、授業中12グループに入ってきていただいて、通告書をつくるときにつくり方とか、質問の仕方だとか、そういうことをサポートしていただいているところです。

それから再質問についてもまた来ていただいて、再質問の仕方だとか、内容だとかこれもサポートいただいています。授業に実際に入ってくれているというところが今年ひとつ進歩したところでございます。これが1から12グループのそれぞれのテーマで

ざいます。特に環境について、というよりも、公共施設についての利用の仕方だとか、そういうものについて高校生の思っていることの質問だとか、意見を述べているところです。

面白かったのは、12番目のふるさと納税について、中札内と比べて大樹町はどうなっているのか、というような質問、意見が出ておりました。振り返りなんですけれども、生徒に終わった後アンケートをとりました。地域をより良くしたい気持ちが高まった、これが大体そう思うという回答が88%。2番目、興味関心が高まったというのが、思う、まあ思うが74%。一番効果があったかなと思うのが、地域への理解が深まった、いわゆる大樹学ですね、これが思う、まあ思うを合わせて90%という高い数字が出ております。これが実際に生徒にアンケートを取った結果です。

どんな振り返りだったかというところ、赤で書いているところです。住んでいるところを見つめ直す機会になった、あるいは、町が抱える問題について深く考えることができた、町のいろいろな政策や取り組みなどを学ぶことができたとか、もっと良い町にしたいと思ったとかですね。また、話がかみ合わないところもあったんですが、それでもお互いに町をよくしていこうという気持ちでぶつかった話し合いであったとかですね。それから、深く知ることができた、議会に関わることができ、良い経験になった、それから、子育て支援などの事業が今後改善されていくのが今後楽しみであると。

大きくまとめますと、4点になるかなというところ。もっと積極的に意見を伝えていきたいとか、意見を述べたいとか、それから、もっとこういう機会を持ちたいとか、あるいは、答弁に対する論議ができてよかった、というところです。

教育的な効果としましては、非常にいいことだったなと思っております。今後に向けてとありますが、これはもう実際に11月14日にやりました。これは新しい取り組みとして町議会の方からアポイントがありまして、高校生と懇談会をしないかということで、3年生の生徒の代表15名と議会の方、議会事務局の方が来られて、うちの会議室で放課後4時から、懇談会を約1時間行いました。中身については、議会でも多かった公共施設の取り組みについてということでした。

ひとつの例を挙げると、たとえば、体育館であるとかプールだとか、あるいは図書館がいま閉鎖している状況、それから、役場の方が耐震工事が大変だということ、どうしようかという話になって、高校生の発想からいろいろなところに施設がばらばらだと言いきづらいつらいつらということで、役場のところに全部持ってきてはどうか、役場に図書館も入れるし、いろんな公共施設も入れて、近くに体育館を建てて、そうすれば町の人たちが一挙にそこに集まって賑やかになるんじゃないか、みたいな話の懇談会でした。

最後になりますけれども、教育的な効果というところでは、高校生議会を通してこれが大樹学の集大成なので、まだまだ始まって2年ですけれども、いま小学生が12年たって、高校3年になったときには、もっともっと深い話ができるようになってるんじゃないかなというところですよ。いま、主権者教育が非常に注目されていますが、高校生議会で主権者教育の根本となるところを学校でもやっておりますし、これはすごくいい経験です。ただ、それだけではなくて、小学校から高校に至るまでの地域に関する様々な学習に取り組んでいた生徒は、地域のことを正しく理解したうえで、町に対して意見を述べたり、提案を行ったり、地域社会の一員としての自覚を高め、よりよい社会の実現に主体的に参画する資質や能力を育むという狙いが達成される教育効果かなと思っております。雑駁ですが、以上で高校の大樹学についての取組みについて説明させていただきました。ありがとうございました。

高橋中学校校長

大樹中学校での取組みについて説明させていただきます。この貼り絵は、今年度スペースイラストコンクールで大樹町長賞を受賞した1年生の大佐古さんの作品です。本校のキャリア教育の目標ですが、自己を理解し、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度及び能力を身に付けるということで決めています。キーワードは、自己理解、自立ということになるかと思います。時間の関係上、3つの内容に絞ってお話しさせていただきます。

はじめは、町や社会のしくみを学ぶ学習です。この写真は、2年生の職業体験の様子です。1年生で職業調べ学習を行い、2年生になって実際に2日間、町内の事業所に伺って職業体験をさせていただきます。今年度については、44人の生徒が自分の希望する、合わせて21の事業所に分かれてお世話になりました。こんなに多くの事業所、お店等が協力してくれることにとても感謝しています。私も前任の町ではこんなに多くの協力してくれる事業所はなかったと感じております。

先日、この職業体験のまとめとして、発表会を保護者、事業所の方々にお出でいただきに行いました。生徒たちは2日間の体験を通して社会人としてのマナーですとか、実際に働いてる方々の大変さや、さらに仕事しながらの声ですとか、そういうものを感じて帰ってきて発表していました。

これは、職場体験の事前学習として同じく2年生がマナー講座を受けた様子です。この日は帯広信用金庫の田中さんを講師に招きまして、あいさつですとか礼儀をはじめとした社会人のマナーとして教えていただきました。特に、この方は新人社員の研修を他の企業にも出かけてやっているということで、生徒は姿勢でわかるようになりかなり緊張して、実際の社会人としての研修を受けているような状況でございました。

この写真は、人生設計授業のひとつとして6月に行ったものづくりマイスターによる授業です。この日は札幌からタイル職人の方々に来ていただいて、タイルを使ったコースターづくりに生徒が挑戦しました。こうしたものづくりの体験を通して、特にこの日はグリーンのジャンパーを着た方々ですが、職人としてのプロ意識といいますが、そうした思いを持った方々で、生徒とやり取りする中で、仕事に懸ける熱い思いを生徒は学んでいました。

それから、資料にはないんですが、今月11日にライフ・プランニング授業ということで、生命保険会社のライフプランナーの方に来校いただきまして、人生設計のありかたについて学んでいます。この中では、グループ活動を通して、人生、老後まで含めて、まあ中学校の段階なんですが、どうやっていったらよりよい人生がつかれるか、シミュレーションするというので、生徒が考えを出し合って、こうしたらいいんじゃないとか、こうしたらもっと生活が変えられるよとか、そういうものを議論していました。

次は、宇宙について学ぶ学習です。宇宙のまち大樹に住む子どもたちにとって重要であることから、今年度特に中学校として力を入れている内容です。この写真は、1年生が理科の学習でグループ毎にペットボトルロケットを作成し、学校の前でグラウンドに向かって打ち上げている様子です。生徒たちは何度も改良を加えながら協力して活動していました。夏休みには代表の生徒6名が清流まつりで大会に出て、打上げをしております。

それから、写真はないんですが、宇宙に関わっては3年生が宇宙の学ぶ単元があります。あと、これはペットボトルロケットコンテストの様子です。理科室の前に掲示しています。宇宙のまちということで、2階に掲示板をつくりまして、町、道などから出ている宇宙に関する資料を掲示して、生徒に啓蒙して関心を高めているところです。今後、町の宇宙事業所でジョブ・シャドーイングによる体験ということで学習を予定しているところです。

3つ目、これは町の歴史や未来について学ぶ学習です。この写真は昨年度2年生の社会科で、地域の高齢化が進むことが全国的な課題として取り上げられ、大樹町も高齢化の問題がありますので、町おこし授業として酒森町長さんに講師をお願いして授業を行っていただいたものです。生徒はこの高齢化に関わって対策等、思い思いの考えをまとめていました。この町おこしについては、この後十勝の子ども会議の中で代表の生徒女子2名が行って、その後北海道の大会にも代表として行って札幌で発表させていただいております。

この町おこしの学習について、本校で行っている家庭教育学級という保護者の取り組みがあるんですが、その中で同じように社会科の大橋教諭が、お父さん、お母さんに同じ

問題を考えていただきました。同じように保護者の方も町おこしについてこれから必要なことを考え、討論しております。

なお、今年度については、先ほどお話にあったように、昨日町長さんに来ていただきまして、1年生が学びました。特に今回は、キャリア教育に絡めて総合的な時間の中で考えてということで、1年生のうちに町についてやっぱり町長さんから町づくりの思いを聞こうと、それを受けて2年、3年につなげようという形で計画しました。

特に、宇宙のまち大樹の取組みについて、まちの未来についてお話をさせていただいたのですが、町長さんから、本町で行っている実験が実際に来月使われていくということに誇りを持ってほしいと伝えられました。人口減少に関わって2040年の件についても町長さんから説明していただいて、ちょうどいまの中学生が30代後半ということでまちづくりの中心になっていくんだと、その話を聞いて生徒はやはり考えなければいけないということで、生徒に後から聞いてみると、テーマパークをつくるとか、人を呼べるようなショッピングモールですとか、子どもなりの考えが様々あり、まとまったら町長さんにお伝えしたいなと思っているところです。

一応、簡単ですけれども、本校の取組みについて紹介させていただきました。なお、保護者の方にもなぜ中学校がキャリア教育を進めているかということを理解してもらうということで、こういうことでキャリア教育を進めていますよということを定期的に通信という形で出しながら理解をいただいているところです。その点からいうと、保護者の方々にとってキャリア教育というどうしても進路学習的な、どこの高校に行かせたいとかになりがちですが、そういうことではないんですよと理解を求めているところです。以上で中学校のお話を終わります。ありがとうございました。

高井小学校校長

小学校の取組みについてご説明させていただきます。よろしく申し上げます。小学校のキャリア教育の全体目標ということで載せてあります。非常に大きいものですが、実際には子どもたちにはまず自分たちの住んでいる大樹のまちの良さに気づく、そして大樹のまちの良さを知るということを大切にしています。体験活動を通して自分たちのふるさと大樹町を知って、愛着や誇りを持ってほしい、そして自分たちが大人になったときにまちの未来を切り開いていく、そういった子どもを育むということを大きな目標にして取り組んでいるところです。

本校のキャリア教育はここにあるように4つの視点で分類しています。歴史、自然、産業、宇宙ということで、これらの取組みについて説明させていただきます。

まず歴史の部分ですけれども、大樹町の歴史について学ぶ活動を通して、自分の生まれ育った地域に興味・関心・誇りを持つとともに、社会の一員として役に立とうという意識を持つということを目指して行っています。具体的な取組みとしては、5年生の総合的な学習の時間での取組みですけれども、NHKの放送体験クラブというものがありまして、自分たちでまちのことを取材して実際にNHKの放送局へ行って番組をつくるというもの。この写真は昨年のものですけれども、今年も5年生が出かけて行きました。おそらく間もなくNHKの7時ちょっと前くらいのニュースで紹介されると思いますので、そのときはぜひ見ていただければと思います。

昨年は、真ん中の写真がチーズサーモン丼を紹介しているもの、右側は砂金掘りだと思えます。このような活動をしています。子どもたちは事前にこのようにその場に取材に行っています。左側の写真は晩成社の跡、右側はトーチカの跡を取材している様子です。これをつなぎ合わせてひとつの番組として大樹町を紹介するという取組みです。

2つ目の視点は自然ということで、大樹町の恵まれた雄大な自然の中で体験活動を行うことによって、大樹の良さに気付くとともに、この自然を守ろうという意識を高めるということを目的に行っています。最初の写真にも出ていたんですけれども、砂金掘り体験を行いました。昨年の4年生です。今年は台風の影響がありまして、行うことができなかったんですけれども、このような形で地域の愛好会の皆様に指導していただきながら、砂金掘りを体験したところです。本当に小さなものなんですけど、キラッと光るものが見つかる子どもたちがわくわくして、のめりこんでやっていました。私もやったことがあるんですが、腰にちょっと響くものの、とても面白かったです。

6年生はカムイコタンに行きまして、森林に関わる学習を行っています。今年はイタドリを吹く笛をつくって、楽しんで鳴らしていました。学校から帰るとき、下校途中で鳴らさないよう、家に帰ってから鳴らしてくださいということで楽しんでいました。

つぎに、3点目の産業についてです。さまざまな仕事や産業に関心を持ち、その特徴や方法・仕組みなどについて学習するというところで、興味・関心を持つとともに体験活動を通じてより深く知ることができるようにということで進めています。2年生の生活科の学習でまち探検です。

先日も寒い中、病院と駐在所とか図書館にもお邪魔していたと思います。お店に行くことももちろんありますし、いろいろなところに出かけてどんなお店があってどんな仕事をしているのかということも学んできています。子どもたちはグループに分かれて、いろんな質問を事前に考えて出かけて行きます。たいへんなことはどんなことですかとか、2年生なりに一生懸命考えて行ってきます。戻ってきた後にインタビュー等を元にして学級の方で新聞づくり等に取り組んだりもしています。

これは、雪印の工場の見学に出かけた様子です。昨年度のもので、今年もこの後また出かけることになっています。裂けるチーズとかカマンベールチーズ、大樹の牛乳などのようにつくっているかということを見学しています。ちなみに3年生になると、大樹の農業について1年を通じて学んでいきます。酪農であったり、中島の酪農祭に毎年出させていただいていたたり、酪農家を訪問して牛を見るといった活動をしています。

4年生は漁業について学んでいます。これはサケの稚魚を放流したところですがけれども、年間を通してサケの稚魚の放流、それから地引網の体験、そしてマツカワの稚魚の放流、最後に秋にサケを使った食育ということで、サケフレークをつくったり、秋味汁、イクラの醤油漬け、これを漁協の方々に協力していただいて実際に学校でつくって、その日の昼食にはすべて食べられるという、なんと贅沢なことだろうというふうに思って、私は食べていなんですけれども。

今年4年生が取り組んだこのまとめとして、お手元にあるこのような新聞づくりをしています。実際に体験したこと、インターネットで調べたりしながら、自分たちでクイズをつくったり、写真を取り入れたりしながら、このような形でつくっています。5枚目にはサケフレークの作り方なんていうのも載せてあったり、サケを捌くところなども子どもたちに実際に教えていただいて、何人かの子どもがチャレンジしています。これを体験できる大樹の子どもたちは、とても幸せだと思っているところです。

最後に4つ目の宇宙に関わってです。これは大樹でしかできない学習ということで、これから大きな夢を持って育って行ってほしいなと。そして、子どもたちが大人になった頃にはこれが実現する日が来るんじゃないかなと思います。昨年、北海道の教育委員会の子どもの心に響く道徳推進事業ということで、植松電気の植松さんに来ていただきまして講演をしていただきました。道徳の授業のなかで、思うは招くということで、夢があれば何でもできるんだということをお話ししていただきました。その際に、体育館で行っていたんですけども、外へ出て、ロケットを飛ばすところを実際に見せていただきました。大樹小学校の子どもたちは、実はあまりこういうことを体験していない。ロケットのまち、宇宙に本当に近いまちなんだということはわかっていながらも、実際に接したことはないという子がたくさんいますので、そういった意味でこのときはわーっという大歓声が上がって、ほんとうにいい体験ができたかなと。夢を持つことの大切さについて学ぶことができました。

これは今年です。4年生の理科の授業で、閉じ込めた空気と水という学習があるんですが、その導入の段階で、先ほど中学校でもあったんですけども、ペットボトルロケットを飛ばす学習を行いました。これも初めて体験する子が多かったんじゃないかなと思います。いろいろな学習があるんですが、ちょっとしたところに大樹ならではのとい

うものを組み込んでいけるのかなというふうに思っています。これからも様々な場面でそういった工夫をしていきたいと思っていますところです。

これは5年生の宿泊学習の様子です。これは昨年12月のものです。天気がよければ夜帯広の児童会館で望遠鏡を使って天体観測をすることができます。このときは木星を観測したんじゃないかと思うんですが、今年もいい天気になるんじゃないかな、いいものが見れるんじゃないかなと期待しているところです。

それから、6年生はSORAの方に見学に行っています。バスを出していただきまして、このような形で行きました。今日は学校で見ていただいたんですけども、この学習を元に壁新聞をグループ毎につくって学校の廊下に掲示してあります。

こういうような形でいろんな取組みをしているんですけども、前段でお話ししたとおり、まず大樹のまちのいろいろな良さに気付くということが、まず大事なかなというふうに思います。そのためにまずは我々教師がまちのことを知らないとかだめだなと本当に思うところです。我々やはり転勤族なので、なかなかこうまちのいろいろなことを知る前に異動してしまうということもあり、まずは我々がまちの良さを知ることによって、先ほどもあったようにいろいろな学習の中のちょっとしたところに大樹の良さを組み込んでいくことができるんじゃないかなと。そうすることによって子どもたちがいままで知らなかったまちの良さに気付く。それがたくさんこう集まることによって、子どもたちもまちの良さにもっともっと気付いていくことができるのかなと思っています。

まず我々自身がまちのことをよく知るということを大切にしながら、これからもいろいろな部分で、先生方の見方が変わってくるといろんな授業内容も変わってくと思うので、そんなところを目指して大樹のことをよく知っている子ども、大樹のまちを好きな子どもをたくさん育てていきたいなと思っていますところです。以上で小学校の説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

酒森町長

ありがとうございました。ただいま、本日の協議事項、議題の1点目であります小中高一貫ふるさとキャリア教育ということで、先日の全道のフォーラムでも発表した大樹町が取り組んでいます小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業、大樹学を中心としたキャリア教育のあり方について、それぞれ高校、中学校、小学校の取組みの内容を発表していただきました。

それぞれの子どもたちの年代、成長に合わせたそれぞれのキャリア教育のあり方が小中高でそれぞれ発表にあったというふうに思います。それができるということも、大樹町がこのモデル事業を受けさせていただいた、そしてこれを元に先生方が御努力いた

いて、大樹学という本当の大樹の教育の根幹となるようなものをつくってもらったということが非常に大きいかなというふうに思っています。

金田校長先生のお話にもありましたが、これが実際に実を結ぶにはある程度の年数がかかると思います。小学校1年生が中学、高校とこの大樹学を学ぶということで、その集大成がきっと学んだ子どもたちが社会に出るときに大樹を誇れる、地域に貢献できる、社会に貢献できる人となっていくということが究極の目標なのかなと思っています。

この後、教育委員の皆様を含めて、ご意見ご質問等をお出しいただいた後にこの大樹町が行っていますキャリア教育について本日オブザーバーという形でお三方にご出席いただいておりますので、後程それぞれの思うところ、御意見、御指導をいただければと思っているところです。

すでに教育委員の皆様は内容的には御承知だったかなと思いますが、改めて大樹のふるさと教育、キャリア教育のあり方、中間報告ではありますが、いまの取組状況を、いま見た聞いた中でご意見があればお出しいただきたいと思います。

鈴木委員

ひとつ質問がありまして伺いたいのですが、小中高それぞれ子どもたちが非常に素敵な体験をしていることがよくわかったのですが、この取組みの中で、たとえば宇宙の取組みについてですと、大樹町がなぜ宇宙の取組みを始めたかということ、ペットボトルを上げたりとかそういうことはあっても、なぜ大樹町なのかというところの教える時間は持たれているのでしょうか。そこを根本的に知った上で、だから大樹町なんだよというところを子どもたちは理解しているのかどうかを、まず伺いたいと思います。

高井小学校長

正直なところ、そこまでの深いものはないです。いつ頃からこういう取組みがなされているとか、そういった部分を子どもたちに教える場というのは、正直ないです。ひとつ、3年生、4年生段階で、社会科で地域を学ぶ副読本もあるんですけども、そういった中にそういう宇宙に関わる部分とかも含まれていくといいのかなと。キャリア教育を始めたときに副読本でどの程度扱っているのかと私もざっと見たんです。そうしたら実はそんなになかった。

鈴木委員

私も読みました。

高井小学校校長

これから先、これをさらに系統立ててやっていくとなったときに、そういうことを果たして小学校段階ではどの程度まで伝えるのか、中学校段階、高校段階ではどういう形でこういった場面でそういうことを伝えていくのかということ、系統立てていくというのが必要なのかなと。

高橋中学校校長

中学校では、やはり、いま小学校でもあったように、はっきりこの学年この場所ということではなく、各教科、特に理科辺りでは宇宙の学習もありますが、そこで出てきたなかで、付け加えてもらったり、社会科の学習の中で、まちの歴史で宇宙のことを入れながらということで、先程町長さんのお話にもあるんですけども、そういうふうに考えて、やはり1年生のときにこの種の取組みをして認識してもらってということです。

金田高校校長

高校では、地域の人材を活用した講演会というものがあります。その中でJAXA等をお願いしてるところで、毎年研究するひとたちが来るんですけども、その中の方々に講演会をしてもらう。例えば、今年は千葉工業大学の惑星探査研究センターというところから大野理学博士、大野先生に来ていただいて全校生徒に話をさせていただくんですけども、その前段で、なぜJAXAなのか、なぜここにJAXAがあるのかということは前座で各担当がホームルームで事前に話をして。

すべて宇宙の話ではなくて、今回千葉の先生は惑星探査研究なんですけれども、いわゆる、なぜ恐竜が絶滅したとか、地球はどうやってできたとか、それからいま自分がいま研究しているのは大気圏に生物がいるかもしれないんだと。宇宙に生物がいるんだよという話をして。非常に生物的な話もしてもらいました。なぜここにあるかということは、子どもたちはそれなりの知識を持っていると思っています。

鈴木委員

わかりました。ありがとうございました。

酒森町長

私からも一点追加でお話させていただきますが、昨日、中学1年生に話した中で、大樹町がなぜ宇宙の取組みを進めるかという話を少しさせてもらったんですけど、前段、なぜ大樹町が航空宇宙の取組みをしているか知っている人、といったら、正直、皆無。

手を挙げづらいということもあるかも知れないけれども、はっきりわからないという感じが中学1年生。いろいろこういって30年に渡ってやってきたんだよというところも、みんなふーんという感じだったんだけど、実はいまJAXAが大樹でやっている実験の話のひとつするねといって、昨年から行っている実験なんですけれども、高橋校長先生のお話にもあったんですけど、来年打ち上がるこのとりの7号機に搭載される実験を昨年から大樹で行っていて、たまたまH2Bとこのとりの模型があるんですが、それを持って行こうと思って忘れて。机の上にペットボトル、水が置いてあったので、これを実はね、このとりは宇宙に物資を運ぶスクールバスくらいの大きさがあるロケットに積んでいくものなんだけど、これに食料とか日用品とかを積んで、宇宙ステーションISSに行って、宇宙飛行士が、大西さんが掴んで、中身を出して、最終的には中にごみとかいらぬものを積んで宇宙に捨てて、大気圏に突入して燃えちゃうんだという話。

みんな、ああそうなんだと聞いてたんだけど、実はね、燃やして消えちゃうだけじゃもったいないので、大気圏に突入をして、地球にいろいろ成果品とかを持ってこれるような研究をJAXAがやっていて、それを大樹でやってるといって、みんなの顔つきが変わったんですよ。なので、うまく実験がいけば、来年のこのとりの7号機にその成果が積まれて、日本から宇宙に行くんだという話をしたら、非常にみんな興味を持ってくれたという感じを受けたので、いろんな部分で大樹が取り組んでいる内容を子どもたちに理解をさせるきっかけ、興味のあるようなことは、意識付けで入口としてはいいかなと強く感じました。

実はね、いままで30年こういってやってきたという話をしても、そうなのかなー、30年といっても12年しか生きてないからわかんないなー、くらいのニュアンスだったんだけど、そういう入口を見つけてあげると。来年、日本からこのとり7号機が打ち上がるよといったときに、そのことを思って、戻ってきたら、大樹の実験の成果が実を結んだんだと思ってねという話をしたら、やっぱり、一歩、少し大樹町と宇宙の接点が子どもたちに繋がってくれたらなと。きっかけ、子どもたちが大樹を学ぶという部分では、どういうきっかけを与えてあげるかということで理解を深める上では大きなことなのかなと感じたところではあります。

高橋中学校校長

実際に町長さんに熱い思いを語っていただいたんですけど、大樹町は実はすごいまちだと。

酒森町長

中学1年生で何かありませんかと聞いて、はいはいと手を挙げるような子どもはなかなかいないなと思って。極力意見を聞くように、はいはいと当てるようにしたんですが。いろんな意見は、やはり子ども目線なりにいい意見をいっぱいいただいて、非常にいい時間だったかなと思っております。石山委員、いかがですか。

石山委員

子どもさんたちと触れ合う機会を多めに持ってございまして、特に子どもたち、大樹大好きで、特にまちの大自然の良さとかですね、アキアジはおいしいよ、学校で学んだんだけどすごく体にいいんですよ、食べてますかと、そんな話をさせていただいたり。宇宙開発ロケットの関係で、ベンチャー企業っていうんだってねといいましたら、あれ英語でアドベンチャーっていうんだよ、冒険という意味だよと逆にいろいろ教えてもらいまして。

いろいろな機会にコミュニケーションの材料はたくさんありますので、本当に大好きな子どもたち、誇りを持ってまして、自尊意識っていうか、そういうのが高いのかなと。教育的に大変素晴らしいことだなと、心からありがたく評価しているところです。

酒森町長

丹後委員、いかがでしょうか。

丹後委員

先程の校長先生方のお話、大変わかりやすく、感銘いたしました。素晴らしい、非の打ちどころがないぐらいの、大樹学ができてたった2年だそうですね、よくその中でこれだけのことを取り組んで、進めているということに、敬服というかそんな言葉が思い浮かびました。

それでですね、先に資料をいただいて、ちょっと読んでいたんですけども、この中に何が足りないかなと考えていたんですけども、的外れでしたらお許し願いたいんですけども、私もその中に加わってきているんですけども、地域のお年寄りのお話を聞くような、きっと心の問題に触れることになると思うんですけども、それが入らないんじゃないか、その1点だけがちょっと気になったんです。

的外れてしまったら大変恐縮なんですけれども、おじいちゃんおばあちゃんとか、昔御苦労された、そういうひとたちの話を聞く、それはきっと小学生なんか、高齢者のひととふれあいながら聞けたら、昔の話って私も大好きなんですけれども、そういう

機会をもうちょっと盛り込んでいただけたらいいのかなって。あとはもう、本当に素晴らしい内容だと思っております。

酒森町長

非常に大切な意見かなと僕は思います。キャリアという言葉では職業という部分もありますが、経験という意味もキャリアを積んでということもあるので、長く大樹町で暮らしいただいた、いろんな経験をたくさん持っている方々のお話を聞くということは、非常に、大樹を知るという意味でも地域の大きな財産だと思いますので、非常にいいかなと思います。ありがとうございます。

山下委員、教育委員になられてまだ間もないんですが、御自身の農業という部分で、農協活動、青年部活動でいろいろと子どもたちが農業について学ぶような場所を設けていただいているんですが、農業に関係しての大樹町を知るといようなことで思いがあれば。それでなくても結構です。

山下委員

はい、本当にまだ日が浅くてですね、自分自身の子どもたちも、上は大学を卒業して、下の子も専門学校ということで、小中高とすべて終わっている状態で、初めてこういう場に出席する立場をいただいたんですけども、しばらく直接的な学校との接点がない中で、なかなか何をもって話していいのかというのが実際のところなんですけれども。

今回キャリア教育ということで初めて聞かされ、実際取り組んでいることは僕も酪農家なので、例えば中島の酪農祭に小学校の生徒が参加して地域の方と交流し、地場の教育、地場の産業に根差した教育を取り入れてもらっている姿は目の当たりにしているので、最近はまだ、大樹といえば宇宙のまちと一発目に来てしまうんですけども、酪農のまちでもありますから、入口としてはいい入り方なのかなと思っています。

ほとんど、学校の生徒も非農家が圧倒的な人数となってきた中で、なかなか農業ってわからなくなってきた。大樹というまちの中でもわからなくなってきたことを考えると、やはりそういった教育の中で学校生活の中にそういった場面を取り入れてくれると、これから将来農業に関心を持ってくれる子どもたちが育ってくれるかなと思うところがあります。

酒森町長

山下委員からは、大樹町の基幹産業は一次産業でありますし、その中で農業が大きな役割を持っているということでもあります。地域を守っていく、維持していくためには

産業をしっかりやっていくということが大切だと思いますので、農業に限らず、林業、漁業を含めて、大樹の産業を知ってもらうということが、子どもたちにとっても非常に重要な役割があるということは私も考えているところです。

委員の方から大樹町のキャリア教育のあり方、いまの進み具合等について御意見をいただきました。この後、せっかくでありますのでオブザーバーのお三方に大樹町のキャリア教育についての思うところ、また、今後こういうことを手掛けてはいかがでしょうかというところを含めてお話をいただければと思います。最初に、十勝教育局の竹林局長の方からご発言をお願いしたいと思います。

竹林十勝教育局長

十勝教育局の竹林でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。この小中高一貫ふるさとキャリア教育でございますけれども、北海道教育委員会としては、メインとなる大変大きな事業として考えています。それはなぜかといいますと、いままで教育はつねにふるさとについて、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを知り、ふるさとを愛する子どもたちを育てていこうということを中心としながら進めていたんですけれども、それにプラスアルファとして、自分たちがふるさとを支える、さらには自分たちが一翼を担っていくという気持ちも合わせて考えていこうと。

地域創生といいますが、そういうような形の取組みを教育として、もちろん総合振興局であるとか、町長部局、役場の皆様はやっていたんですけれども、学校がそこまで踏み込むということはいままであまりやっていなかった。そういうことも含めてやっていこうと。そのためには、町、教育委員会、さらには関係機関を含めてやっていく、後押しをしていただく。さらにはその中で先生方の意識も変えていこうということも、そういう取組みとしてさせていただいております。

それが本町、大樹町で行なうことができまして、さらにその中で町立の学校、道立の高校、さらには教育委員会をはじめとして町長、議会、地域の方々を含めて取り組んでいただき本町で展開しているということを大変嬉しく思っていますし、北海道教育委員会としては、この大樹町での取組みを足掛かりにして十勝の子どもたちが十勝を思い、十勝を愛し、明日の十勝を担う子どもたちになるように、また、そういう子どもたちを地域全体で育成できるようにと考えながらやっていきたいと思っていますので、そういう面では本当に大樹町の取組みに期待を申し上げますし、支援していきたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。私の方からは概略的なところだけお話しさせていただきます。

酒森町長

それでは続きまして教育指導監であります沼田指導監の方からお願いいたします。

沼田十勝教育局義務教育指導監

本日は貴重な会議に参加させていただき、本当にありがとうございました。私、実は平成3年の4月から6年間大樹小学校に勤務していた経験があるものですから、まさに今日の大樹小中高の実践発表を聞きながら、本当に大樹のまちが大樹の子どもたちを育てているんだなと大変心強く感じさせていただいたところでございました。

私の教育局での仕事は、各小中学校を回らせていただきまして、学校経営の充実をどう図るかということで校長先生、教頭先生と協議をしながら、さらなる改善点についてピックアップしていくことを任務としており、十勝管内の143校を年に2回ずつ回らせていただいております。その関係で、ふるさとキャリア教育ということを教育の柱として多くの学校で校長先生、教頭先生とお話しさせていただいております。

各地域、各学校でいろいろな取組みを実態に合わせてやっていることは間違いないことなのですが、多くの学校を回ってきたときに私の中になんとかふるさとキャリア教育がバラバラに進んでいる、統一感がなくて、本当は統一的なものなんじゃないかなという思いがずっとあったんですが、大樹で推し進めていただいておりますこの事業に触れさせていただいたときに、私は、やっぱりこれだ、というヒントを実践から見出しておりました。

といたしますのは、大樹町でやられておりますとおり、キャリア教育の視点からまちの多くの方々、まちの自然、産業、事業所、そういったところと幅広くふれあうことによって、ふるさと教育で目指している、それぞれの宇宙のことについて専門家になることが目的ではなく、宇宙が身近にある環境を生かして子どもたちの中にふるさと大樹で育った誇りを心の中にどーんと育ててあげるんだ、キャリアとふるさと教育はつながっている、やっぱりこれは学校教育の大事な視点だなと思ひまして、他の町村を回らせていただいているときに、大樹のふるさとキャリア教育をひとつの実践例として御紹介申し上げているところでありまして、その点で十勝のふるさとキャリア教育のトップランナーを走っている町だと思っております。

先ほどお年寄りの方も入れた、もう少し幅を広げたふるさとキャリア教育という素晴らしい御意見も先程出たところでございましたけれど、そういった意味でワイドにこの取組みを拡げていただいて、さらなる充実を図っていただければなと思ひます。

蛇足になりますが、私の二人の子どもも大樹で6年間過ごしまして、だいぶ忘れていくところもありますが、いまだに大樹のまちが大樹のまちが、と話題になることがあり

まして、うちの子どもたちの心の中にも大樹がしっかり育っておりますので、今後も期待申し上げたいなと思っているところです。以上です。

酒森町長

この会議の前に、小学校、中学校を御視察いただいたんですが、大樹小学校は参観日だったということで多くの保護者の方が小学校にいらしてたんですが、指導監が大樹小学校にいたときの御自分の教え子に3人会ったそうです。

オブザーバーとして御出席いただいております振興局の梶田局長からは、教育に関わらず、大樹町についてのアドバイスのなお話があればいただければと思います。

梶田十勝総合振興局長

先程御挨拶させていただきました十勝振興局の梶田でございます。今日、ここへ来る前に小学校、中学校の授業を見させていただくことができました。先生の話聞きながら一生懸命ノートをとっている子どもたちを見て、勉強の重要さ、学ぶことの大切さを改めて実感した次第です。そして何より、今日は寒いんですが、小学校では半袖姿の子どもさんもいたんですが、町長さん含め役場の方もいい意味での学習環境ができています。表はぜんぜん関係ないと。学校にいれば一生懸命走り回って。学ぶための快適な環境が整っていると思いました。

今日お話しさせていただきましたキャリア教育なんですけれども、この10年間学んだことは子どもたちにとって、たぶん将来の財産になっていくものと思っています。小学校、中学校で何を学んだか、どこで何を聞いたのか大変印象に残っているだろうし、人格形成に大きく影響しているだろう。そういう意味で、私ども振興局としましては、一生懸命学んだ子どもたちが地域に貢献できる、あるいは十勝に残って仕事ができる、簡単に言えば産業の裾野を広げたりすることが私たちの仕事だと思っています。

いま学んでいることは、例えば30年前に学んだことがいま生きているとすれば、いま勉強したことは30年後に生きると考えたときに、例えば農業、林業、水産業、あるいは大樹がいまやっておりますロケットなど先進的な産業も含めて、地域にとってどれだけ大きな産業、働く場となってここで生きていく方々にとってポジティブな場となるか。そういう面での対応をいまからしっかりやっていくことが重要。

産業は人材から、が私常々思っていることでございまして、人によってどうにでも産業は変わっていきます。そういう意味で、人づくりというのは教育の問題として大変御苦労いただいておりますけれども、文字どおりこれは産業、経済にとって重要な要素。引き

続き、大樹の産業、まちづくりの点で、一緒になって前へ進めていかなければならないものと思います。

酒森町長

本日、オブザーバーとして参加をいただいておりますお三方から大樹町、大樹町教育委員会にとって非常に貴重な御提言をいただけたと思います。ありがとうございました。

協議事項の1点目、小中高一貫ふるさとキャリア教育について、内容の協議を進めてまいりました。全般を通してこのキャリア教育の関係で御発言があればお出しいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは協議事項、まだ1点ございますので、進めてまいりたいと思います。2点目の新年度教育予算についてお願いいたします。

浅井教育長

今日、この前段で開催された教育委員会の会議の中で来年度の予算の内容を報告させていただきました。総合教育会議で協議されている内容を、早期に教育予算に反映できるようにと提言をいただいているところです。

酒森町長

新年度の予算の関係で、それぞれ原課との予算の協議をすでに終えています。新年度に向けて、すべての課でどういう事業を取り組むかというところで、新たな提案又はいろいろな予算の必要な部分について表示がありました。今後全体を通して予算をつくっていくという作業に入ってまいりますが、今日、教育委員会で出た意見又は要望等を含め、この場で委員の皆様から何か御発言があればお出しいただきたいと思います。

丹後委員

学校図書館に司書を配置するという話を聞きまして、これは大変いい話だと思います。ぜひ、予算を付けてください。小学校も中学校も高校も図書室を見せていただきました。蔵書がとてもあって、特に小学校は親しみやすく、明るくて、本当に感心しております。まさに書店のような配置をしてあって、すばらしい図書室だなと思っております。また、中学校の図書室を見せていただいたら、いい本がいっぱいあって、すごいなと思いました。高校もを見せていただいて、宇宙関係の本があって、もったいないな、私たち一般町民も見れたらいいなと思いました。

いちばん思ったこと、ずっと考えていたことですが、建物とかそういうものはいくらでも建てられますね。その中身、昭和 50 年に図書館が建ったときに、最初から仕事をさせていただいたんですけれども、そのときの図書館長にこう言われました。仏つくって魂を入れる、と。私、その意味がこの年になって初めてわかってきたんですけれども、やっぱりその人だとか、なんでも大事なことだと思うんですけれども、魂、心がないといい図書館、図書室にならないと思う。それには人だと思うんです。こんないい本があるよとか、紹介してくれる人とか、すごく大事だと思うんです。とても熱くなってしまうんですけど、そのためには学校図書館司書というのを配置することが絶対必要だと。中に入って本を紹介する人がいないと、ただ飾り物になってしまう。ぜひ予算を付けて配置していただきたいなと思います。

酒森町長

予算協議の中でも教育委員会の方から学校司書の関係の、臨時ですけれども司書を配置したいという要望がありました。年間で 220 日、小学校に 3 日、中学校に 2 日という割振りの予算の要望でした。丹後委員が仰るとおり、図書館、図書教育を含め、大切なのはハードではなくてソフトであろうと思います。先ほど梶田振興局長の御発言にもありましたとおり、人材をつくっていく、ハードよりもソフトの方が非常に大切だなと思いますし、予算協議の場でも発言させてもらいましたが、教育委員会にある図書館のスタッフの活用が非常に大きいんじゃないかなと思います。

図書館の職員がどんどん学校とかに関わりをもっていくということも大切だと思いますし、図書教育の充実が必要だと思いますので、あり方については今後予算のつくりを含めて検討していければと思っております。教育委員の方からも強く要望があるということを肝に銘じて進めていきたいと思っております。

ほかに予算の関係で御発言がありましたら、お出しいただきたいと思っております。なければ、せっきくの総合教育会議でもあります。行政と教育が会議の場でいろいろなことを検討する大変大事な場面でもありますので、教育全般に関わることでの御意見、御発言がありましたらお出しいただきたいと思っております。

鈴木委員

新聞を使う教育が盛んになっているようですが、学校ではそのような取組みを専門にされている先生がいらっしゃるのか知らないんですけれども、そういうような取組みをされる方向性があるのか伺ってみたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

高橋中学校校長

中学校では、新聞活用ということでは、教科の中で国語の先生が社説を読ませ、まとめる力とか読み解く力をつけさせるといった取組みをしています。

鈴木委員

新聞にも載っていたんですが、学力テストを見ると記述力に課題があり、それを改善するためには読書が大切だということもあるんですけども、書くという能力を伸ばすことはできないかなと思ひまして、一保護者でもありますので、そうした取組みが行われているのかを聞いてみたかったので、質問させていただきました。

金田高校校長

高校では、書くというところでは、進学するような子どもたちに小論文指導を独自に放課後2年間通して、小論文の書き方の指導をしています。

高井小学校校長

小学校では、新聞を活用した授業は行われていません。そういった管内的な団体もありますし、授業に取り入れている先生はたくさんいると思うんですけども、本校ではそういう取組みをしている先生はいないのが現状です。すごく効果のある部分ももちろんありますし、活用の仕方とかどういった場面で取上げていくとか、様々な方法はあると思うので、我々も学んでいかなければならないと思っています。

酒森町長

ほか、教育全般に関わること、町政に関わることでも当然結構ですが、御意見、御要望があればお出しただければと思います。よろしいでしょうか。

では、本日協議をお願いした内容については以上のとおりです。御発言がなければ、これで第2回目の総合教育会議を閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

大変、中身の濃い活発な御意見をいただき、よい協議の場になったかと思ひます。改めて大樹町の総合教育会議に足を運んでいただきましたオブザーバーの皆様、そして説明員として同席いただいた小中高の校長先生方にも重ねてお礼を申し上げます。

こうして一堂に教育に関係する方々が会して大樹の教育について語るという部分では、この総合教育会議は非常に有意義で大切な場だと思っております。ぜひ、この教育会議を通じて大樹の教育がさらに一歩でも向上できるように、そういう場に今後なって

いければなと思っております。特に校長先生方には次回もまた御出席についてお願いをする場面もあるかなと思えますし、いろいろ大樹町の現場の声をこういう形で聞けるのは非常にありがたかったかなと思っているところです。所定の時間となりましたので、第2回目の総合教育会議をこれで閉じたいと思えます。大変ありがとうございました。

午後5時32分 閉会

以上、会議の顛末を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成29年3月22日

議長 酒森正人

委員 浅井真介

委員 石山新一